



れんげそう

令和7年1月31日
福生第五小学校
学校通信第570号

褒める

校長 泉田 巧人

令和7年も早1か月が過ぎ、今年度も残すところあと2か月です。今年は、太陽の周期の関係で、2月2日が節分です。3日は立春となり、暦の上ではもう春を迎えます。節分には、日本の伝統的な行事の豆まきがあります。豆まきは、季節の変わり目に起こりやすい災いを鬼に見立てて追い払う儀式です。各家庭においても今年一年の無病息災を願って豆まきを楽しむとともに、季節の節目に新たな目標を立て、目標を達成させるために邪魔になる心の中の鬼を退治してはいかがでしょうか。



お囃子体験(重松流 くまこ囃子連 様)

さて、日本の伝統といえば、1月22日に、重松流くまこ囃子連の方々に来ていただき、第三学年と第四学年がお囃子体験を行いました。お囃子を鑑賞したり、体験したりと郷土の伝統に触れいい体験ができたと思います。福生のお囃子について福生市郷土資料室や福生市観光協会のホームページで調べてみました。明治時代の初期に始まり一度途絶えてしまいましたが、1947年(昭和22年)に戦後の低迷した空気が流れる地域を活気付けようと、福生の青年たちが復活させたそうです。現在市内では14団体が継承しているようです。お囃子とは、お祭り際に神様を褒めたたえ、豊作を祈願し、感謝の気持ちを表すためのものだそうです。神様も褒められることで、農作物を豊かに実らせるのですね。褒めることの大切さが改めて分かったような気がします。

学校においても2月には、校内展覧会、読書旬間、七五三挨拶運動、縄跳び記録会、6年生を送る会等々の様々な行事があります。一つ一つの行事や授業を大切に、子どもたちを大いに褒め、実りあるものにしていきたいと思います。今後とも御理解と御協力をお願いいたします。

二次的な障害について考える

皆さんは発達障害を御存知ですか。よく知っている方、聞いたことはあるという方と様々いると思います。発達障害とは、三つの主要な障害「自閉症スペクトラム障害 (ASD)」、「注意欠陥多動性障害 (ADHD)」、「学習障害 (LD)」の総称です。現在は、特別支援教育も進み、発達障害への理解も進んでいます。それぞれの障害種によって現れる特性は違いますが、支援を受けたり、自分の特性を理解して、対応方法を学んだりすることで、障害の改善・克服が見込めます。また、医療との連携により、薬による治療が効果的な場合もあります。実際に、ADHD の子どもが服薬することで授業に集中して取り組めるようになり、テストの点数が上がる事例もたくさんあります。しかし、「障害」という言葉からくるものなのか、偏見や差別がまだまだ根強く残っているように感じます。そのため支援が遅れ、子どもが苦しんでいることが少なくありません。

発達障害のある子どもは、頭の中では、「本当はきちんとやりたい」と思っている、特性上自分の意思や力では本当にどうにもならず、頑張っても失敗を繰り返してしまいます。本人は、なぜ「できない」のだろうと本当に困っている状況なのです。そうであるにもかかわらず「怠けている」「努力が足りない」等と思われ、叱責されることが多くなってしまいます。この様なことが積み重なり、「自分はやってもできない」「自分はできない悪い子だ」と自己肯定感が下がり、不適応がおこる二次的な障害になってしまうことがあります。「何もしなくなる」「暴言、暴力が出る」「怒られないために嘘をついてごまかす」「〇〇のせいでこうなった。などと人のせいにする」「論点をすり替え、自分を正当化しようとする。」「暴れたり大泣きしたりして自分の要求を通そうとする」「そっちが〇〇したら、自分もこうしてやると交渉し、大人をコントロールしようとしてくる」等、反省することができず他罰的な思考になることがあります。その他にも様々な不適応が出てしまいます。二次的な障害になると状態がより複雑になるため、改善が困難になり適応が難しくなっていきます。そうならないために早期に特性に応じた支援を行ったり、できたことを褒め自己肯定感を上げたりすることが必要です。また、ペアレントトレーニング等も効果的です。御心配のある場合は、いつでも学校に御相談ください。